

「想定外」という言葉で
片づけてはならない



東大社研 [編]
(東京大学社会科学研究所)

危機対応学

《全4冊》

● A5判・縦組・上製・平均380頁

危機対応の社会科学〈上〉
想定外を超えて

本体4,800円＋税 ISBN978-4-13-030215-9 2019年11月刊

危機対応の社会科学〈下〉
未来への手応え

本体5,000円＋税 ISBN978-4-13-030216-6 2019年12月刊

地域の危機・釜石の対応
多層化する構造

本体5,800円＋税 ISBN978-4-13-030217-3 2020年6月刊

国境を越える危機・
外交と制度による対応
アジア太平洋と中東

本体5,800円＋税 ISBN978-4-13-030218-0 2020年7月刊

危機対応の社会科学〈上〉

想定外を超えて

東大社研

玄田有史 (東京大学社会科学研究所教授) —— [編]

飯田 高 (東京大学社会科学研究所教授)

社会のなかのさまざまな危機について、法学、政治学、経済学、社会学の研究成果に基づく考察を通じて、人びとが危機とその対応に対する不安に向き合うための新たな視座の提供を目指す。本巻では、想定外という言葉で安易に片づけてはならない、世界、政策、組織、選択にまつわる危機について考える。

【主要目次】

はしがき [玄田有史]

総説 危機対応がなぜ社会科学の問題となるのか [飯田 高]

第I部 危機と世界

- 第1章 政治思想史における危機対応
——古代ギリシャから現代へ [宇野重規]
- 第2章 危機に対応できる憲法とは
——安定性と適応性の間で [ケネス・盛・マッケルウェイン]
- 第3章 キューバ危機はなぜ回避されたのか？
——時間の国際政治学 [保城広至]
- 第4章 危機の元凶は中国か？
——マグロ、レアアース、サンマの資源危機 [丸川知雄]

第II部 危機と政策

- 第5章 東日本大地震後の電力危機と危機対応
——将来に備えた電力システム改革 [松村敏弘]
- 第6章 危機と資本——金融危機の予防策としての自己資本規制
の意義と問題点の検討 [田中 亘]
- 第7章 政策変数としての稀少確率評価
——消極的予報による中庸化政策 [佐々木弾]

第III部 危機と組織

- 第8章 危機を転機に変える
——東日本大震災と企業の危機対応 [中村尚史]
- 第9章 危機対応と共有信念——明治期における鉱山技師・石渡
信太郎を事例として [森本真世]
- 第10章 職場の危機としてのパワハラ
——なぜ「いじめ」は起きるのか [玄田有史]

第IV部 危機と選択

- 第11章 アマチュア登山家の危機対応学
——リーダーの要諦 [中川淳司(中央学院大学)]
- 第12章 教育、家族、危機——学校に対する評価の社会経済的差
異とその帰結 [藤原 翔]
- 第13章 移民受け入れへの態度をめぐるジレンマ
——個人のライフコースに着目して [石田賢示]

あとがき [飯田 高]

危機対応の社会科学〈下〉

未来への手応え

東大社研

玄田有史 (東京大学社会科学研究所教授) —— [編]

飯田 高 (東京大学社会科学研究所教授)

自然災害、戦争、恐慌、人口減少から家族、健康、仕事、人間関係まで。社会に生じる危機(クライシス)へのあるべき対応について、社会科学の知見を結集する。本巻では、危機対応のしくみを創ることに関わりのある、法律、制度、価値、行動にまつわる危機について考える。

【主要目次】

はしがき [飯田 高]

第I部 危機と法律

- 第1章 憲法と危機——非常事態条項をめぐる [林 知更]
- 第2章 契約上の危機と事情変更の法理
——債権法改正審議の帰趨とその諸文脈 [石川博康]
- 第3章 リスクと危機の間——フランスにおける携帯電話基地局
問題を素材として [齋藤哲志]

第II部 危機と制度

- 第4章 制度によるブリコラージュ
——規範と組織の再創造に向けて [飯田 高]
- 第5章 近世国家の危機対応
——適応と管理、自然と制度 [中林真幸]
- 第6章 日本の財政危機を巡る事実と言説
——なぜ議論が深まらないのか？ [藤谷武史]
- 第7章 「国難」を深めたアベノミクスの6年——逆機能する税・社会
保障 [大沢真理(東京大学名誉教授)]

第III部 危機と価値

- 第8章 日本の「水素社会」言説——高リスクエネルギー政策と不安
の利用 [グレゴリー・W・ノーブル]
- 第9章 陰鬱な危機対応
——現在と未来のトレードオフ [加藤 晋]
- 第10章 災害対応のための政策意識分析
——コンジョイント分析を基に [川田恵介]

第IV部 危機と行動

- 第11章 女性のアドボカシー活動と提言——仙台防災枠組をめぐる
国際連携 [スティール若希(名古屋大学)/レア・R・キンバー
(ジュネーブ大学)]
- 第12章 夫婦の危機が始まる時——パネルデータからみた結婚
満足度 [鈴木富美子/佐藤 香]
- 第13章 考えたくない事態にどう対応するか？——災害への備えと
ネガティブ・ケイパビリティ [有田 伸]

あとがき [玄田有史]

地域の危機・釜石の対応

多層化する構造

東大社研

中村尚史 (東京大学社会科学研究所教授) — [編]

玄田有史 (東京大学社会科学研究所教授)

地域における危機には、ゆるやかにすすむ慢性的な危機、段階的にすすむ危機、そして突発的な危機がある。本書の地域調査では、岩手県釜石市を例として、それらの危機に対して人々がどのように向き合い、対応してきたのか、また対応しようとしているのかを、特に記憶の力に着目しながら考察する。

【主要目次】

はしがき [中村尚史／玄田有史]

序章 戦後釜石における危機の多層化
—災害・産業構造転換・人口収縮 [中村尚史]

第I部 政治と行政の危機対応

- 第1章 震災と地域の収縮——「二重の危機」への対応 [佐々木雄一(明治学院大学)]
- 第2章 危機において政治にできること、なすべきこと——釜石の未来図とその責任 [宇野重規]
- 第3章 財政からみる釜石市の危機対応力——役立った力と今後必要な力 [荒木一男]
- 第4章 災害対策本部というドラマ——転用組織の入れ子構造 [竹内直人(京都橋大学)]
- 第5章 多層化する地域防災——トリガーや心持ちの重要性 [佐藤慶一(専修大学)]

第II部 経済主体の危機対応

- 第6章 地方企業のフューチャー・デザイン——地域内の関係・外部からの調達 [高橋陽子(JILPT)／中村圭介(法政大学)]
- 第7章 釜石港の再生と地域の危機対応能力——T字路から十字路へ [橋川武郎(国際大学)]
- 第8章 三陸鉄道をめぐる希望と危機——地域公共交通経営の普遍性・特殊性 [二階堂行宣(法政大学)]

第III部 地域社会の危機対応

- 第9章 個人の危機と法制度——地域における法化と制度化の間隙 [飯田 高]
- 第10章 高校生人口の減少と高校生活——通学範囲広域化の影響分析 [田中隆一／近藤絢子]
- 第11章 住宅再建までの判断と道程——同じ町の人々の異なる8年間 [西野淑美(東洋大学)／石倉義博(早稲田大学)]

第IV部 地域の記憶と危機対応

- 第12章 記憶の社会的チカラ——記憶と共に生きるための歴史実践 [梅崎 修(法政大学)／竹村祥子(浦和大学)／吉野英岐(岩手県立大学)]
- 第13章 魚のまち、途中の時間——危機と共に生きる人々と水産業 [高橋五月(法政大学)]
- 第14章 つながること、つづけること——まつりを復興させる意味 [佐藤由紀(玉川大学)／大堀 研(青山学院大学)]
- 終章 危機対応と希望——小ネタが紡ぐ地域の未来 [玄田有史／荒木一男]

あとがき [玄田有史／中村尚史]

国境を越える危機・外交と制度による対応

アジア太平洋と中東

東大社研

保城広至 (東京大学社会科学研究所教授) — [編]

アジア太平洋および中東地域には多くの潜在的な危機が存在し続けている。本書では、そうした危機のメカニズムを調査し、国際危機が発生する条件や、潜在的な危機が実際の危機へと変わるのを防止するための方法などについて、社会科学的知見の獲得を目指す。

【主要目次】

序章 国境を越える危機——その原因、帰結と対応、そして予防 [保城広至]

第I部 危機の原因と直接的対応

- 第1章 アジア・中東——危機と秩序の構図 [保城広至]
- 第2章 戦後日米同盟の危機とレジリエンス——安倍＝トランプ政権下での日米同盟の二つのシナリオと危機対応策 [西川 賢(津田塾大学)]
- 第3章 米中関係と危機——政治的意思による安定とその脆弱性 [佐橋 亮(東京大学)]

第II部 危機の帰結

- 第4章 「危機的」な日中関係と対中感情温度 [伊藤亜聖]
- 第5章 国際危機と日韓関係——日韓パートナーシップ宣言の促進剤としての国際危機 [曹良鉉(韓国国立外交院)]
- 第6章 アジア通貨金融危機と中央銀行の独立性強化——危機の責任とIMFコンディショナリティ [岡部恭宜(東北大学)]

第III部 危機の予防

- 第7章 戦争の危機と重要施設の移転——日中の比較史 [丸川知雄]
- 第8章 危機対応の制度化としての予防外交——OSCEモデルの中東への適用案 [中村 覚(神戸大学)]
- 第9章 仮想通貨をめぐる危機対応と規制——古い革袋に新しい酒 [中川淳司(中央学院大学)]

あとがき [保城広至]

国際政治危機年表・経済危機年表 [松岡智之・保城広至]

※所属先の記載がない執筆者はいずれも東京大学社会科学研究所所属。

「危機対応学」刊行にあたって

危機対応の社会科学（「危機対応学」）は、社会に発生する様々な危機（クライシス）および社会そのものの危機的状況と、それに対する社会や個人の対応のあり方について、社会科学の観点から総合的に考察する新たな学問である（英語名はSocial Sciences of Crisis Thinking）。目的は、社会における危機の発生と対応のメカニズムの解明であり、同時にそこから危機を転機とするための諸条件を提示することにある。……

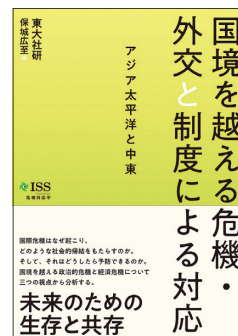
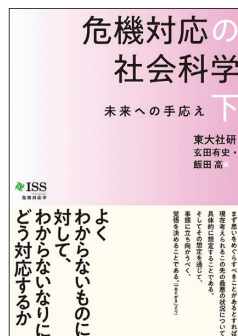
危機対応学は、現代の多くの人々が「危機に対応できそうにない」「危機が起きても自分（たち）は無力でしかない」といった意識や不安を抱いているのではないかという問いから着想された。危機には、戦争、侵略、恐慌、不平等、人口減少、自然災害、環境問題といった集団を脅かすものもあれば、健康、家族、仕事、教育、地域、人間関係にまつわる困難など、個々の生活に直結するものまで、様々な事態が含まれる。さらに、事実や確率として明確に認識された危機だけでなく、漠然と不安に感じていたり、言説こそ罷り通っているものの、はっきりとは同定できない危機もある。危機対応学では、人々により構築されてきた社会システムと関わる、あらゆる意味での社会的な危機を考察対象とした。……

危機の存在はいかに想定される（されない）のか、それに対するふさわしい対応とはいかに実行できる（できない）のかといった問いを、社会科学の知見を結集しながら、危機対応学では研究してきた。

シリーズ「危機対応学」は、4年に及ぶこれらの研究成果を取りまとめたものである。危機対応学では、テーマを特化し、岩手県釜石市を対象に、地域における危機の位相と対応を多角的に調査する総合地域研究と、国境を越えた危機のメカニズムを国際政治、国際法、国際経済の観点から分析する国際危機研究も行ってきた。本シリーズは、上下巻からなる危機対応の社会科学に関する学際研究と、これらの地域研究と国際研究各1巻の全4巻から構成されている。……

「危機対応学」全4巻では、現代社会が抱える危機のあり方について、社会科学の総合知による見通しを示すことを通じ、今後様々な危機が起こっても「対応できる」という手ごたえ、もしくはそのためのヒントを示していく。

東京大学社会科学研究所



【注文書】

※最寄りの書店へお申し込みください。

危機対応の社会科学〈上〉 想定外を超えて 本体4,800円＋税 ISBN978-4-13-030215-9 2019年11月刊	ご注文数 冊
危機対応の社会科学〈下〉 未来への手応え 本体5,000円＋税 ISBN978-4-13-030216-6 2019年12月刊	ご注文数 冊
地域の危機・釜石の対応 多層化する構造 本体5,800円＋税 ISBN978-4-13-030217-3 2020年6月刊	ご注文数 冊
国境を越える危機・外交と制度による対応 アジア太平洋と中東 本体5,800円＋税 ISBN978-4-13-030218-0 2020年7月刊	ご注文数 冊

[書店名] (取次番線)	[ご芳名]	[お電話番号]
	[ご住所]	